3課 4月16日

カインと彼の遺産



安息日午後 4月9日

暗唱聖句

もしお前が正しいのなら、顔を上げられるはずではないか。正しくないなら、 罪は戸口で待ち伏せており、お前を求める。お前はそれを支配せねばなら ない。(創世記 4:7、新共同訳)

正しい事をしているのでしたら、顔をあげたらよいでしょう。もし正しい事をしていないのでしたら、罪が門口に待ち伏せています。それはあなたを慕い求めますが、あなたはそれを治めなければなりません。(創世記 4:7、口語訳)

今週の聖句

創世記4章、ヘブライ11:4、ミカ6:7、イザヤ1:11、1 コリント10:13、1 ヨハネ3:12、創世記5章、創世記6:1~5

今週のテーマ

創世記における人類の堕落とそれに続くアダムとエバのエデンからの追放の直後に起きた出来事は、前の章に記された神の預言の成就として、主に誕生と死を記録しているものです。創世記3章と4章は並列の章として、多くの共通する主題と言葉が登場します。罪についての記述(創3:6~8と同4:8)、「土」(アダマ)の呪い(同3:17と同4:11)、そして追放(同3:24と同4:12、16)がそれに当たります。

これらの並列記事は、先に起きたこと、堕落後に神がアダムとエバに与えられた預言と予告の成就に光を当てるために書かれています。アダムの追放後に最初に記されているのは、希望にあふれる長子の誕生です。エバはこれを、すでに聞いていたメシア預言の約束の成就であると考えました(創3:15)。つまり、彼女は生まれた長子が約束のメシアであるかもしれないと考えたのでした。続く出来事、すなわちカインの犯罪、レメクの犯罪、寿命の短縮、そして悪

それでもなお、すべての希望が失われたわけではありませんでした。

の増加はすべて創世記3章の呪いの成就です。

問1 創世記 4:1、2 を読んでください。この 2 人の男子の誕生についての 記述から私たちは何を知ることができますか。

アダムのエデンの園からの追放の直後に続く出来事として、聖書記者は誕生を記録しています。創世記4:1にあるヘブライ語表現の中で、「主」(ヤハウェ)という言葉は、続く「ひとりの人」と直接に関係しています。それは、「わたしは主によって、ひとりの人を得た」(口語訳)と翻訳されている通りです。この箇所は新共同訳では「わたしは主によって男子を得た」と訳されています。

この訳は、エバが創世記3:15のメシア到来の預言を覚えていて、主なる救い主を彼女が産むと信じていたことを示しています。「救い主の来臨はエデンで予告された。アダムとエバが初めてこの約束をきいた時、彼らはそれがすぐに成就されるものと期待した。彼らは最初に生まれたむすこをよろこんで歓迎し、その子が救い主であるようにと望んだ」(『希望への光』682ページ、『各時代の希望』上巻21ページ。

事実、カインがこの物語の大部分を占めています。彼は長子であっただけでなく、彼の両親はほとんど彼を「あがめて」いました。この物語の中では、彼が唯一言葉を発している人物です。エバは明らかに、カインの誕生については語っていますが、アベルについては何も語っていません。カインの誕生とは対照的に、アベルについては、少なくとも聖書は何も記録していません(創4:2)。

カインという名はヘブライ語の「クァーナー」に由来します。それは「獲得すること」を意味し、何か貴重なもの、力あるものの取得を表します。一方、ヘブライ語の「ヘベル」、英語の「アベル」は、「蒸気」(詩編62:10 [口語訳62:9]、英訳聖書)または「息」(同144:4)を意味し、つかみどころのないもの、はかなさ、中身のない状態を表し、コヘレトの言葉では、同じ語であるヘベル(アベル)が何度も、「空しさ」を表すために用いられています。これ以上この短い箇所を深読みしようとは思いませんが、いずれにせよ、そこにはアダムとエバの希望が込められており、弟ではなく、カインだけが約束のメシアであると、彼らは信じていたのでした。

人生において、本当は空しい(ヘベル)ものにもかかわらず、私たちが実際以上に価値があるかのように扱っているものはないでしょうか。価値あるものとそうでないものの違いを知ることはなぜ重要なのでしょうか。

月曜日 4月11日 二つの献げ物

カインとアベルの違いは、彼らの名前が意味するような、単に個性の違いだけではありませんでした。それぞれの職業にも明らかに違いが表されていました。カインは「土を耕す者」となり(創4:2)、それは厳しい肉体労働が強いられる仕事でしたが、アベルは「羊を飼う者」(同4:2)となりました。それは感受性と思いやりを必要とする仕事でした。

カインは農家となり、アベルは羊飼いになりました。これら二つの職業は、二つの献げ物(カインの果実、アベルの羊)の性質を説明するだけでなく、これらの献げ物に伴う二つの異なる心理的態度と精神的傾向をも示しています。カインは自ら栽培した実りを「手に入れる」ために働き、アベルは与えられた羊を「守る」ことに気を配っていました。

問2 創世記 4:1~5 とヘブライ 11:4 を読んでください。神はなぜアベル の献げ物を受け入れ、カインの献げ物を拒まれたのでしょうか。私た ちはこれをどのように理解すべきでしょうか。

「血を流すことがなければ、罪の赦しはあり得なかった。そして、彼らは、群れの中のういごを犠牲に捧げて、約束の贖罪としてのキリストの血への信仰をあらわさなければならなかった。そのほか、地の初穂が、感謝の捧げ物として主の前に供えられなければならなかった」(『希望への光』38ページ、『人類のあけぼの』上巻65、66ページ)。

アベルは神の教えに従って、動物の焼き尽くす献げ物に加えて野菜を献げました。カインはそれを怠りました。彼は犠牲となるべき動物を持ってくることをせず、「土の実り」だけを献げました。それは公然な不服従の行為であり、弟の態度とは対照的でした。この物語はしばしば、信仰による救い(アベルと彼の血の献げ物)と、それとは対照をなす、行いによって救いを得ようとする試み(カインと彼の土の実り)の典型と見なされてきました。

これらの献げ物が霊的な意味を持っていることは確かですが、献げ物自体に何か不思議な価値があるわけではありません。それらは、罪人を養ってくださるだけでなく、贖いまでも与えてくださる神を指し示す象徴や型でしかありませんでした。

ミカ 6:7 とイザヤ 1:11 を読んでください。私たちはこれらの聖句からどのような原則を読み取り、それを私たちの生活と礼拝に生かすことができるでしょうか。

火曜日 4月12日 犯罪

問3 創世記 4:3~8 を読んでください。カインが弟を殺すようになるまでにはどんな段階がありますか。1 ヨハネ3:12 も参照してください。

カインの反応には二つの部分があります。「カインは激しく怒って顔を伏せた」(創4:5)。カインの怒りは、神とアベルに対して向けられました。カインは自分が不公平の犠牲者だとして神に対して怒り、弟をねたんでアベルに対して怒りました。それは何に対するねたみでしょうか。献げ物に対してだけでしょうか。この場面の背後には、この短い描写以上の何かがあったに違いありません。その問題が何であれ、カインは自分の献げ物が受け入れられなかったために意気消沈します。

創世記4:6にある神の二つの問いは、カインの二つの状態と関連しています。神はカインを責めておられないことに注意してください。アダムのときと同じように、神は問いかけます。神が答えをご存知でないからではなく、カインが自分を見つめ、自分がどうしてそのような状態にいるのかを理解させようとされたのでした。神は、堕落した民が公然と神の信頼を裏切るときでさえ、いつも贖おうとするのです。これらの問いかけの後に、神はカインを論します。

まず神はカインに、「正しい」ことをするよう促します。この助言は、悔い改め、態度を改めるようにとの招きです。神は、カインが「受け入れられ」、赦されると約束しました。彼が神に受け入れられると言われるとき、それをお決めになるのは神であってカインではありません。

一方、「正しくないなら、罪は戸口で待ち伏せており、お前を求める。お前はそれを支配せねばならない」(創4:7)との神の言葉は、罪の根源を示すものであり、それはカイン自身の中にあるのでした。ここでも神はカインに助言し、再び彼に行くべき道を示そうとされます。

神の二つ目の助言は、この罪に対して取るべき態度についてでした。「罪は戸口で待ち伏せており、お前を求める」のでした。神は「お前はそれを支配せねばならない」と言われ、彼に自制をお求めになります。ヤコブの手紙にも同じ原則について、「むしろ、人はそれぞれ、自分自身の欲望に引かれ、唆されて、誘惑に陥るのです」(ヤコ1:14)と記されています。福音は私たちに、罪の赦しだけでなく、罪に対する勝利の約束をも与えるものです(1コリ10:13参照)。結局、カインは自分の罪のために、自分以外のだれをも責めることはできないのでした。この事実は、私たちすべてに共通することではないでしょうか。

この不幸な物語は、自由意志と、神は従うことを強制されないことについて、 私たちに何を教えていますか。 問4 創世記 4:9~16 を読んでください。神はなぜ「お前の弟アベルは、 どこにいるのか」(創4:9) とカインに問われたのでしょうか。カイン の罪と彼が「地上をさまよい、さすらう者となる」(同4:12) ことの間 にはどんな関係があるでしょうか。

カインに対する問いは、エデンでのアダムに対する「あなたはどこにいるのか」との問いを思い起こさせます。それはエデンの罪とカインの罪との間に関連があるからです。後者の(カインの)罪は、前者の(アダムの)罪の結果なのです。

けれども、カインは自分の罪を認めようとせず、それを否定します。アダムは自分の罪を他者に転嫁しようとはしましたが、否定はしませんでした。対照的に、カインは公然と神に反抗し、神はすぐにカインに罪を突きつけます。神が三度目の質問として「あなたは何をしたのです」(創4:10、口語訳)と彼に問われたとき、主はカインの答えを待ちませんでした。主は彼に、主はすべてをご存知であること、そしてアベルの血の声が地から主の耳に届いていると告げます。それは、神は殺人者がだれかを知っておられ、その死に報いることを意味する比喩でした。死んで土の中にいるアベルは、まさに人類の堕落の結果であり、主がアダムに言われた言葉を思い起こさせるものでした(同3:19)。

問5 創世記 4:14 を読んでください。カインの「わたしが御顔から隠されて」 との言葉には、どんな重要な意味があるでしょうか。

アベルの血が地に注がれたために、地は再度呪われました(創4:12)。その結果、カインは神から遠く離れてさすらう者となることを宣告されます。カインは神の宣告を聞いて初めて、神の臨在の意味を知り、それを失った今、自分の命の危険を感じます。弟を殺すという彼の非情な犯罪の後にも、そしてその罪に向き合うことへの挑戦的態度にもかかわらず、主はなおも彼に憐れみを示し、「カインは主の前を去」ってなお(同4:16)、主は彼にある種の保護の手を差し伸べます。正確にはその「しるし」(同4:15)がどんなものであったかについて聖書は語っていませんが、それが何であれ、彼に対する神の恵みのゆえに与えられたものであることに違いありません。

「わたしは御顔から隠され」(創4:14)とは、なんと悲劇的な状況でしょう。 私たち罪人が、そのような状況を避け得る唯一の方法は何でしょうか。

木曜日 4月14日 人の邪悪さ

問6 創世記 4:17~24 を読んでください。カインの残した遺産は何であり、 彼が犯した罪は、人類の邪悪さを増すためにどのように道を開いたでしょ うか。

カインから5代目の孫であるレメクは、彼の生き方の中に、カインの犯罪を引き継いだと言えるでしょう。カインの犯罪とレメクのそれとの比較の中に多く教訓があります。カインは記録されている彼の唯一の犯罪について沈黙を守っていますが、レメクは自身の犯罪を自慢し、歌にまでしています(創4:23、24)。カインが神に憐れみを求めたのに対して、レメクにはそのような記録はありません。神がカインのために7回復讐されるなら、レメクのためには77回復讐されるだろうと彼は豪語します(同4:24)。彼は自分の罪を十分意識していたことになります。

加えて、カインは一夫一妻を守りましたが(創4:17)、レメクは一夫多妻であったことが記されています。聖書は具体的に、彼は「二人の妻をめとった」(同4:19)と述べています。この悪の増加と高揚はカインの子孫に確実に影響を与えることになります。

このカインの家系の中の悪の記述のすぐ後に続いて、聖書はカインの家系の動向に反する新しい出来事を記録しています。「再び、アダムは妻を知った」(創4:25)のです。その結果、セトが生まれます。エバがつけたこの名は、神がアベルに「代わる子」として授け(シャート)られたことを意味しました。

事実、セトという名はアベルに先行するものです。セトという名は、ヘブライ語の「わたしは……置く」(創3:15)という意味の動詞である「アシート」から来ています。この箇所はメシア預言を紹介するものです。メシアとなる子孫はセトの家系から継承されます。その後聖書は、セトから始まるメシアの系図を記録します(同5:3)。この系図はエノクを含み(同5:24)、メトシェラへと続き、ノアで終わります(同6:8)。

「神の子」という慣用句(創6:2)は、セトの家系であることを意味します。なぜなら、彼らは神のかたち(同5:1、4)を保つようデザインされていたからです。一方、「人の娘たち」(同6:2)、すなわち、神のかたちを受け継いだ者たちに比べて、人のかたちである者たちには、否定的な意味合いが暗示されていると思われます。そして神の子たちが、それらの「人の娘たち」から「おのおの選んだ者を妻にした」(同6:2)ために、人類は誤った方向に進むことになるのでした。

創世記 6:1~5 を読んでください。なんという罪による堕落の影響の強さでしょう。私たちは罪を根絶するために、なぜ人生のあらゆる面で神の力に頼らねばならないのでしょうか。

金曜日 4月15日 さらなる研究

繰り返し用いられる「エノクは神と共に歩み」(創5:22、24)という表現は、神との親密な日々の交わりを意味します。エノクの神との個人的な関係は、特別なものであったので、神は彼を取られました(同5:24)。しかしながら、アダムの系図の中で、このエノクの表現は特異なものであり、これが「神と共に歩んだ」者たちは、すぐに天国での生活が約束されるという考えを支持するものではありません。ノアもまた神と共に歩みましたが(同6:9)、彼はアダムやメトシェラを含む他のすべての人間たちと同じように死にました。エノクに与えられたこの特別な恵みを正当化する理由が私たちに何も与えられていないということもまた興味深いことです。「エノクは義の説教者になって、神がお示しになったことを人々に伝えた。主をおそれた人々は、エノクから教えを聞き、共に祈るために集まって来た。彼は、また、人々の間で公の伝道に従事し、警告の言葉に耳を傾ける者には、だれにでも神の使命を伝えた。彼は、セツの子孫のためだけに働いたのではなかった。

カインが主の前からのがれてきた土地でも、神の預言者は幻に見た驚くべき 光景を人々に伝えた。『見よ、主は無数の聖徒たちを率いてこられた。それは、 すべての者にさばきを行うためであり、また、不信心な者が、信仰を無視して 犯したすべての不信心なしわざ……を責めるためである』(ユダ14、15)」(『希望 への光』44、45ページ、『人類のあけぼの』上巻、82ページ)。

話し合いのための質問

- カインはなぜ弟を殺したのでしょうか。エリ・ヴィーゼルは次のように述べています。「なぜ彼はこのようなことをしたのか。おそらく彼は1人でいたかったのではないだろうか。すなわち、独り子でいたかったし、彼の両親の死後は唯一の人間として。神のように1人になり、そしておそらく神の地位に自分が立つために・・・・カインは自分が神になるために殺人を犯したのだろう・・・・・。だれでも自分を神の地位に置こうとする者はみな、殺人という破滅に至るのである」(『神のメッセンジャーたち──聖書の人物と伝説』58ページ、英文)。私たちは殺人を犯さないまでも、どうすればカインのような態度に陥らないよう注意深くあることができるでしょうか。
- ② 洪水前の人間の寿命(創5章)とその後の父祖たちのそれを比較してみてください。私たちはこの寿命の短縮をどのように説明するでしょうか。この人類の退歩と現代の進化論とは、どのように対立しますか。

刑務所で赦される(その2)

次の安息日、受刑者のマティアス(仮名)とダンテは挨拶を交わし、楽しく会話をしていました。しかし数分後、マティアスは、急に声のトーンを変え、落ち着かなくなりました。少年時代と大人になってからの生活について語り始めた彼は、罪深い欲望との何年もの葛藤を打ち明けました。

マティアスは、「俺は、間違ったことをしたとは思ってないんだ。ここを出れば、また同じことをするだろうな」と言うと、ダンテをじっと見て、反応を窺っていました。ダンテは、自分が試されていると理解しました。ダンテの反応が非難する神を表すのか、愛する神を表すのか、マティアスは確かめたいと思ったのです。ダンテは、「イエス様、恵みを与えてください。私を赦してくださったあなたは、彼を赦すことができるはずです」と心の中で祈りました。

マティアスは、その訪問者が静かに座っているのを見て、もう一度言いました。「俺を捕まえたら、あんたはどうする?」まだ祈っていたダンテは、静かに答えました。「もし、神様が私に恵みと救いを与えることができるなら、神様はあなたにも恵みと救いを与えることができます」。マティアスは顔を歪めて驚くと、「俺を非難しないのか?」と言いました。ダンテは、ローマ7章19~20節を読み、「私たちは自分の行動をしばしば理解していません。私たちは自分のしたいことをせず、したくないことをしてしまうのです。あなたは自制できないので、自分の行動について悪いと感じないのではありませんか?」と問いかけました。

マティアスは、ダンテの手から聖書を奪ってその聖句を読みました。ダンテは、今度は8章1~2節を読んで言いました。「神様はあなたを罪に定めません。あなたを助けたいのです。そして、いつもあなたを愛しています。神の霊が自分に入るように許可を与えれば、あなたの人生は変わります。私を助けてくださった主は、あなたも助けたいのです」と、ダンテは言いました。

深い悲しみと罪悪感を経験したマティアスは、その日からすべてが変わりました。 神様と聖書をあざ笑うのをやめ、自分の生活を変えたいと思った彼は、ダンテと聖 書研究をするようになりました。あなたの安息日学校献金は、世界中のアドベンチ



ストの教育機関でダンテのような学生を訓練し、イエス様 の貴い恵みの約束と罪に病んでいる世界への救いを伝える ために、助けとなります。

(アンドリュー・マクチェスニー)